

門相日隆聖人物語

第15回



550

本能寺の再建

日隆聖人が、京都をお留守にされている間に、妙本寺の月明によって本能寺は壊されてしまった。そして十一年も荒れ果てたままだったんだ。

しかし、日隆聖人から教えをいただいで、援助をされていたご信者の山本宗句という人が、再び、お寺を再建して、以前のようになにに教えをいただきたいと、日隆聖人に連絡されるんだよ。

小袖屋宗句

山本宗句さんは、京都でも指折りの裕福な商人で、小袖屋宗句と言われたように、京都で衣服を商う人だったんだよ。宗句さんは、もともと妙本寺のご信者で、日隆聖人が妙本寺に入寺される前から、お住職の日露上人から教えを受けておられたんだ。

そこに、月明が入寺し、前のお住職である日露上人が亡くなると、勝手なことをやりだしたんだ。宗句さんは、月明に反対して、正しい教えをされている日隆聖人、日存上人、日道上人を援助されるようになるんだよ。

応永二十五年（一四一八）、月明に反対して妙本寺を出られた日隆聖人は、宗句さんにかくまわれるんだけど、そこを見つ

敦賀でのご奉公を終えられた日隆聖人は、十一年ぶりに京都にお戻りになられるんだ。それは、京都のご信者で、山本宗句という人が、京都にお戻りになってご奉公していただきたいとお願ひしたからなんだ。今回は、久しぶりに京都に戻られた日隆聖人のお話だよ。

つて命を狙われるんだ。しかし、殺しに来た月明の部下を、逆に味方にして、しばらく京都を離れられたんだ。



再建される本能寺

本能寺の再建

永享元年（一四二九）、久しぶりに京都に戻られた日隆聖人は、宗句さんの援助で、千本極楽付近に本能寺を再建されるんだ。そして、五年後、如意王丸から、六角大宮の西、四条坊門に、広い土地をいただかれて本能寺を移転し、ここでお寺の名前を本能寺にするんだよ。

如意王丸は、足利尊氏公の弟である直義

公の息子さんなんだ。もともと日隆聖人の実家である桃井家は、直義公の部下で、有力な武門の家柄だったから、そのご縁もあって日隆聖人を援助されたんだね。やがて、本能寺は、足利將軍家の援助も受けて、京都でも一、二と評判のお寺になるんだ。

相次ぐ戦乱と大火

しかし、京都は、応仁の乱（応仁元年・一四六七〜文明九年・一四七七）で大半が焼かれてしまい、本能寺もその時に炎上するんだけれども、やがて京都の商人が中心となって再建。しかし、天文五年（一五三六）、天文法華の乱により、今度は比叡山の僧兵に焼かれてしまうんだ。

一時期、堺に避難していたんだけど、天文十六年ごろに京都に戻ってきて、以前よりも立派なお寺ができるんだ。そして、有名な「本能寺の変」が起きる。戦国時代の英雄・織田信長が、天正十年（一五八二）六月二日、部下の明智光秀の裏切りにより殺される。もちろん、お寺も焼かれてしまったんだ。

このようにして、本能寺は創建以来、四回場所を変わり、七回も火災にあつたそうだよ。それでも、代々日隆聖人の教えを守り、末寺を二百五十も建て、弘化二年（一八四五）、開導聖人はここで、日隆聖人の教えをいただかれて入信、その教えを正しく伝えるためご開講されるんだ。

このように本能寺は、佛立宗とご縁の深いお寺なんだ。



堀川高校の裏手、油小路通にたたずむ「本能寺の変」の舞台となった本能寺跡を記す碑